

今回、鶴田町みどりの会で 2 月 24 日から 3 月 3 日までの日程で、ニュージーランド、韓国に農業視察に行ってきた。

国内産リンゴが少なくなる時期には、南半球のニュージーランドで作られるリンゴの輸入が多くなる。韓国ではスーパー（ロッテマーケット）に行ってきた。リンゴは袋に 6 個入りで安くもなかった。スーパーの中で野菜も育てており、ガラス張りで LED で光を当て、水耕栽培をしていた。

3 日目にニュージーランドのオークランドに着き、そこからヘイスティングスへ行った。そこでは ENZA Fruits を視察してきた。畑の規模は 70ha で、リンゴの品種は Jazz、Envy、KIKU という品種を植えており、今年は干ばつで雨が降らず土が乾燥しており、かん水をして防いでいた。

Jazz は小玉で酸味が強い。台木は M9 を使っており樹勢が強い。木を植える間隔は狭く植えていた。2009 年（Jazz）枝は柔らかめ。

Envy は甘いリンゴで台木が CG202 を使っていた。成るところは弱い枝枝に成らせ、手入れが楽。輸出はアジアに向けて売り出して、10a 当たり 8.5t もリンゴを取っていた。去年、褐変があつて原因を調査しており、若木に多い。

KIKU は日本のふじに似ている品種で、木の間に交配樹を植えて受粉をしていた KIKU は 10a 当たり 9t をあげる。

主な病気・虫は、黒星・ハマキが見られる。気候がカラッと暑く雨が少ないので、ダニは少ない。

4 日目は試験場、ワイナリー視察。ワイン工場ではブドウも育てていた。ブドウは天気が一番で、今年は雨も少なくいい出来。ワインを作る作業は白が先で、洗浄、つぶし、2 時間くらい。残りはジュースにする。赤は種、皮も使える。

ブドウの木は斜面に植えていた。ここでは無農薬で作られていた。ブドウ農園では作って 4 年目でオーナー制度で作っていた。面積は 2 エーカーで 13 種の品種を作っていた。植え付けは 6 ～ 9 月で 9 月に新芽ができる。霜対策で上にも網を掛けていた。天気がいいと薬も少なく済む。2 週間に 1 回薬。去年は寒かったため実も小さく、成りもよくなかった。

総合公園ではピーマンなどを作っていて、ハウスはプラスチック製で上が 2 つ開くようになっていて、温度が調整できる。ガラスよりコストが安く、遮断効果もあり、土を使わず水耕栽培。すべてコンピューターで管理しており、室温・湿度・濃度・薬など。水もリサイクルされ、使われた水は真ん中に集められる。害虫は天敵になる虫を放す。フィジョアはブラジル産で、寒い地域には適さない。霜にも弱く、受粉は鳥でやる。収穫から 4 週間置いてから出す。

トマト農場では 4.2ha 作っていた。2 本仕立てで吊り下げ方式作られていた。冬は暖かく、夏は水で調整。収穫は 8 か月可能とかなり長い。温度、薬はコンピューターで管理される。